

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム さくら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300027		
法人名	医療法人 青松会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒028-6103岩手県二戸市石切所字森合31番地		
自己評価作成日	平成 23年 12月 18 日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391300027&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23 年 12 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・職員が笑顔で元気良く毎日過ごせるように努めています。利用者様の清潔保持・安全に努め、今の状態を少しでも長く維持出来る様に、職員が介護計画をもとに統一した処遇で支援出来る様にしてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域は高齢化してきており住民活動も停滞化しているほか、事業所も表通りからは目立たない立地環境にあるため、地域住民との直接的な交流の機会に恵まれないことが課題となっている。一方で地域の行政機関や医療機関とはよく連携がとれており、母体法人である二戸クリニックからも必要に応じた支援がある。また利用者家族には事業所から職員が思い思いに作る個性豊かな広報が毎月届けられ、医療・健康面での充実したサポートと併せて家族の高い信頼につながっている。これまで開設当初の職員が入替わることなく体制を維持できていたが、今年度は複数職員の退職があり、新人職員も加入するなかで様々な取り組みの共有性を高める必要性も生じてきている。これらの課題は事業所においても明確に意識されており、この課題を表明できる健全な自己評価認識と地域のフォーマルネットワークとの良好な関係、そしてこれまで培われてきた職員のチームワークと雰囲気の高さを背景として、今後も利用者および家族の信頼に応えていくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、意識付けは出来ているが、地域密着型サービスの意義までは厳しいです。	これまで法人理念を基本としていたが今年度は職員の退職に伴った困難も多く、課題を整理しながら事業所としての活動目標を全員で検討した。そこでは「地域に開かれた事業所」、「職員の技術向上と統一した援助」といったことが重視されている。	昨年度まで開設当初からの職員が欠けることなくやってこれたのは素晴らしい反面、新たな職員が加わってからの共有性が今問われている。これを良い機会と捉えて自分たちの姿勢や方法の共有を重視しながら見直していったらいい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来てないです。地域の行事(盆踊り、お祭り)参加を促しています。	母体である病院敷地内の奥まった場所にあることもあって、住民が立ち寄るなどの直接的な交流は少ないが、隣接の薬局と行き来があるほか、目に付くところに花壇を設置してアピールしている。また地域の祭りにはよく出かけている。	立地環境的な難しさ(外部から見えにくい場所や行き来しにくい柵の存在)はあるが、母体の病院や隣の薬局は協力的であり、近隣住民にアピールできるような行事の共催提案など、様々な工夫を今後期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に活かせてないです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度推進会議が上手く開催されておらず、厳しい状況です。開催時には質問・意見が必ず寄せられ、理解を深めていただけるように努力しています。	包括支援センター職員、民生委員、町内会長、家族といったメンバーで開催しているが、今年度は職員の出入りもあって予定通り実施できていない。開催時は事業所の活動報告に対して意見をもらっている。	今後職員体制が落ち着く中で、地域の防災体制や傾聴ボランティアグループとの関係づくり、また近隣環境のどこに事業所や利用者の活躍の機会が得られそうかといったことなどについても、メンバーに相談してみるのも有効と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手続きの際は必ず窓口に行き、なじみの関係を築きながら相談にものっていただいています。	保険者である広域行政組合とのやり取りが多く、書類整備についてのアドバイスなど有意義な情報交換ができています。また包括支援センターや市の介護保険担当課とも良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在玄関の施錠は、夜間の防犯のためのみ行っています。	実質的に検討を要するのは利用者が一人で外に出ようとするケースだが、現在そのような利用者はいない。以前そのような利用者がいたときには近所の呉服屋の協力が得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないのですが、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な利用者様はいませんが、研修に参加する機会を設け知識を得るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退所にあたっては家族と話し合い、他事業所と連絡を密にし納得いただける状況づくりにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年同様、ご家族に参加して頂ける行事の企画をしたり、面会には積極的に声がけをし、状態・近況を報告しています。	遠方の家族もあることから家族が事業所を訪れる機会は多くはなく、意見が寄せられることも少ない。家族への情報発信として毎月広報の「さくらだより」を送付し、行事やドライブの様子などを伝えている。	広報は担当職員の個性がでており目楽しく、来訪頻度は少なくともアンケート結果をみれば家族の事業所への信頼は確かに生じていると思われる。家族とのつながりをいかしながら、もっと意見を言っていんだという意識をもってもらえる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議で介護職員と管理者での意見交換は行っており、円滑な業務遂行に努め、管理者はその内容を代表者へ報告しています。	主に利用者に反映する意見を中心として日々の申し送り等で話し合いをする他、法人に企画書で職員意見を提案することもある。現在物品購入は事業所の事務量を軽減する点から法人で担っているが、自分たちで選んで買えればいいとの意見もでている。	買い物に外に出るといった場面は、利用者にとって地域生活を感じられる貴重な機会ともなる。法人の配慮に感謝しつつも、事業所で食材をはじめとした物品購入ができる方法も検討していただいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見をきき、職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりが段階に応じて介護力の向上を目指し参加出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学、また、合同での行事などを通じて同業者との交流及びサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より馴染みの関係が築ける努力をし、ご本人からの言葉を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、ご家族の思いを話して頂ける様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での様子を把握し、今後ホームで生活していくための課題を挙げ支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに出来る事をみだし、出来る事をその方の役割として日々の生活に活かすことで、共に暮らす仲間の関係作りが築けてます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話連絡等で、状況・状態を報告しています。面会時にはゆっくりと過ごして頂けるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもゆっくり面会して頂ける様に体制を整えています。外出行事では、自宅そばまで行き昔を思い出して頂ける様にしています。	家族が来たときには利用者と居室でゆっくり過ごしてもらっている。また一戸出身者が多いことから一戸方面には度々ドライブし、知り合いとばったり会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに馴染みの関係が築き上げられており、支え合い日々を過ごしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や相談等に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や性格を考えた上で、楽しく安心した生活が出来き、その方の立場になり、その人らしい暮らしが出来る様に支援しています。	利用者や家族と日々接するなかで様々な気持ちをくみ取っており、その前提として職員との関係性もおおむね良好である。アセスメントの視点にはセンター方式を用いているが、決まった書式はまだ定めていない。	前任のケアマネージャーが退職したこともあって、アセスメントの方法は共有化されていない。形が定まっていない今を機会と捉えて、利用者のどのような気持ちに焦点を当てていくのかを、新人職員も含めて検討していったらいい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からのお話し、他事業所からの情報提供により把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、記録により日々の変化に注意し対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにより、ご本人の生活に沿った介護計画が作成されるように努めています。	家族からは健康面への配慮が要望として多く、ケアプランにも疾病への対応や健康維持を目的とした支援内容として十分に反映されている。また見直しも3カ月ごとに行われている。	医療・健康面での支援はよくされている一方で、利用者の生活面についてはプラン上に記載されていない印象も受ける。個々の生活をどう支援するかということは、アセスメント方法も含めて検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や申し送りにより、情報の共有に努め介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご要望や状況に応じてご本人の様子をみながら臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1～2ヶ月に1回、床屋さんに依頼し来所していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関の受診をして頂いています。受診時には状態を報告指示を受けています。	病院受診は基本的に家族が対応しているが、難しい場合には職員が対応している。母体である二戸クリニックの場合はスムーズな受診ができるよう協力を得ており、また他病院受診においても緊密な情報連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等すぐに報告・相談できる体制にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供、入院経過、連絡を蜜にするように心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態をみながら、ご家族と話し合い、出来る事、できない事を十分にお話しし、ご家族の意向を確認し主治医と連携しています。	これまで終末期までの対応は事業所では困難との方針だったが、現在看取りの要望が利用者から出されており、経験のあるスタッフがいることや母体の病院の協力も得られることから、スタッフの意識作りを進めながら今後看取りの体制を作っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行ってません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練実施はしているが、地域との協力体制はいまだに築けていません。	昨年度までは毎月避難訓練を実施していたが、今年度は中心となっていた職員が退職した事情もあって1回のみの実施となっている。今後訓練の頻度を高めていくほか、東日本大震災の状況を踏まえて地域の婦人部に協力を依頼しながら炊き出し訓練も検討していく予定である。	震災は当時の一般世帯にも困難をもたらしており、そのなかでの助け合い関係の構築は地域の課題ともいえる。遠慮せずに消防団や近隣世帯にも相談をしていってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切につつ、その方々に応じた声かけ・対応を心がけています。	主に接遇の観点から議論されることが多く、利用者と職員間の親しみと信頼感を大事にするときに、必ずしも敬語のみで接するわけではなく、そのことを本人や家族、親せき等から了解を得ながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴え、自己決定は尊重しつつ状況により対応出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく自由にして頂ける様にしています。その方々の状態・体調等をみながら声かけするようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでおしゃれされる方は想いのままにしています。整容はホールの鏡をみながら各々が行えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から盛り付け、片付けまで一緒に行ってます。	配膳や下膳、食材を切るといったことは利用者に手伝ってもらうことで家事能力を発揮できる場面となっている。また外での食事は利用者にも喜ばれており、ラーメン食べ歩きといった企画は広報でも紹介されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士指導の下、バランスの摂れた食事の提供が出来たます。食事量・水分量は個別に把握し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている。なるべくご本人に行っていたりしますが、状況に応じて声かけ・介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・水分チェック表をもとに、トイレ誘導声がけを行い、快適に過ごして頂けるようにしています。	利用者個々にタイミングを捉えながらトイレ誘導をしており、日中は全員布パンツで過ごしている。水分補給をしっかりともらうことや、栄養士の献立によって便秘予防にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れ他【食事の提供。病院と連携しながら、必要に応じて下剤の服用と体操・散歩・入浴・足浴・寒天の使用など工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は決まっているが、曜日等は設定せず入浴できています。様子をみながら声がけし、拒否ある時は時間をおく、別の日にと対応しています。	毎日入浴している利用者が1名いるほか、他利用者も2～3日に1回の頻度で入浴している。入りたくないとの要望時には、足浴や清拭を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態をみながら、日中は短時間で休んで頂いたり、夜間は安心して休んで頂ける様に室温・ベットの位置など工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬説明書がすぐ見れるようにしてあります。薬に変更があれば、申し送りします。声かけあって確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のお手伝いも楽しみの一つとなるように、お話ししながらの作業で楽しい雰囲気と一緒にしたいと思って頂ける様に声がけします。行事を通して気分転換出来る様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂きたいので、普段からホームの周りを散歩したり、外のベンチでお茶をしたりしている。毎月外出計画(行事計画)を立てて出かけています。	事業所が面する通りは狭くて交通量が多いため、敷地内の病院まわりを散歩している。また遠方へは、2グループにわかれながら久慈の沿岸や十和田、渋民イオンや一戸道の駅といったところに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心できる方には自己管理で持ってもらっています。外出の際に自由に買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度自由に電話をして頂き、手紙をお預かりして出したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔で快適に過ごして頂けるように掃除や湿温度に注意しています。季節に応じた装飾、花を飾ったりしています。花・野菜を育てる事や、ホールから見える景色で季節を感じて頂ける様に努めています。	日中はホールで過ごす利用者が大半で、日当たりもよく居心地のいい場所となっている。また裏手の畑ではミニトマトやじゃがいもが収穫できるほか、ホール奥のベランダは眺めがよく、誕生会ではベランダで景色を楽しみながらお弁当を食べたりしている。	ベランダ部分は隣接地よりもだいぶ高い位置にあることから、広大な風景を見ることができ、その奥には地域のシンボルである折爪岳ものぞめる。非常に気持ちのいい眺めであり、今後もこのスペースを気分転換や様々な交流に用いていってもらいたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやマッサージチェアなど個人の好きなところで過ごして頂いています。夏は中庭、玄関脇等で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物、馴染みのものを持ち込みしていただいています。	各居室にはベットとタンスが備え付けてあり、加えて利用者ごとにカレンダーや家族との写真、お気に入りの人形などが飾られていたり、職員からの誕生祝いの色紙を飾っている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は一人ひとりの状態に合わせてベットの位置やタンスを移動し、危険の無いように工夫しています。ホール内も歩きやすいよう配慮しています。		